

演題番号
P1-12

長崎県における
後期高齢者（75歳以上）のがん罹患

吉田 匡良、今村 香織、久松 美晴、久保田 久美子、
篠原 裕子、野口 智佳、永吉 明子、杉山 裕美
放射線影響研究所疫学部（長崎県がん登録室）

【目的】

長崎県がん登録の事業報告では、主に「全国がん登録標準集計表」を基に付表や図表を作成し報告してきた。報告書では年齢階級別の罹患数や罹患率も報告しているが、年齢別に治療の施行の状況などの情報は示していなかった。長崎県人口の高齢化は顕著で、高齢のがん患者も増えているため、75歳以上のがん罹患者の特性と治療状況を調べた。

【方法】

全国がん登録長崎県がん情報の2016年から2020年診断の匿名化情報を利用した。上皮内がんを含むがん情報から、胃、大腸、肺、肝、乳房（女性のみ）の5部位を抽出して進展度別に治療の施行状況を、診断時年齢が75歳未満と75歳以上で分けて比較を行った。

【結果】

〔図1. 長崎県人口〕2000年：150万人（75歳以上10%）、2013年：140万人弱（同15%）、2020年：130万人（同17%に迫る）へ人口は減少し、高齢化が加速した。

〔図2. 罹患状況〕がん罹患者約7万2千人（2016～2020年診断）のうち、75歳以上は44%。

〔図3. 発見経緯〕75歳以上では「がん検診・健診」が少なく、「偶然発見」が多い。

〔図4. 進展度別治療状況〕75歳以上でも多くの患者で、胃、大腸、乳房では観血的治療、肺、肝では放射線療法、乳房では内分泌療法、肝の化学療法が施行されていた。原発発がんの観点から「上皮内～限局」では、胃、大腸、乳房に80%前後、その他肺50%、肝20%ほどの観血的治療が施行されていた。また、放射線療法が肺と肝で16%と7%、化学療法が肝で30%弱の患者に施行されていた。

進展度が進んだ「隣接臓器浸潤～遠隔転移」では、胃、大腸、乳房の患者のうち、観血的治療は30%～50%、放射線治療は2%～7%、化学療法は20%～30%の患者で施行されていた。何れも75歳未満より少なかった。

図1. 長崎県人口

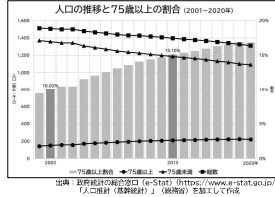


図2. 罹患状況

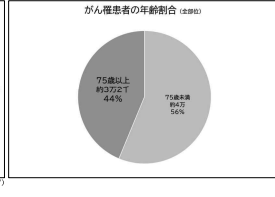


図3. 発見経緯

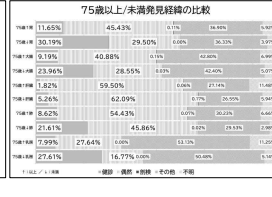
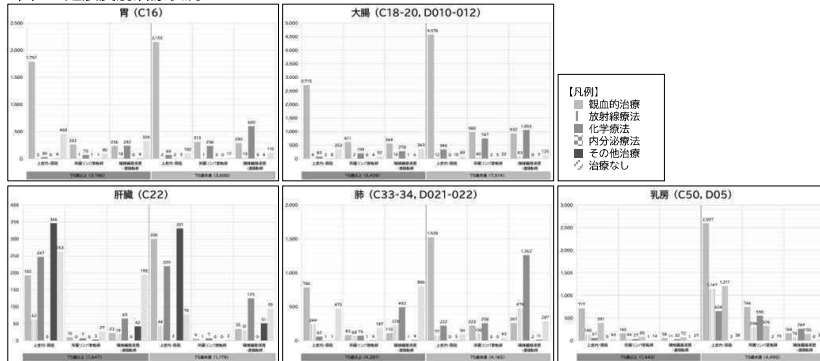


図4. 進展度別治療状況



部位	進展度	75歳以上治療割合				75歳未満治療割合							
		観血的	放射線	化学	その他	観血的	放射線	化学	その他				
胃	観血的	78.7%	-	-	1,791	78.7%	262	71.8%	32.2%	154	62.1%	82	16.9%
	放射線	0.1%	-	-	3	0.1%	1	0.3%	2.5%	3	1.2%	15	3.1%
	化学	1.3%	-	-	30	1.3%	70	19.2%	33.0%	68	27.4%	174	35.9%
	治療なし	20.2%	-	-	460	20.2%	90	24.7%	44.5%	79	31.9%	247	50.9%
大腸	観血的	88.3%	923	98.5%	1,792	83.8%	611	86.2%	55.7%	274	77.8%	290	43.9%
	放射線	0.1%	0	0.0%	4	0.2%	2	0.3%	1.6%	9	2.6%	7	1.1%
	化学	2.7%	1	0.1%	82	3.8%	199	28.1%	27.5%	81	23.0%	197	29.8%
	治療なし	15.5%	14	1.5%	339	15.9%	92	13.0%	35.9%	67	19.0%	206	44.8%
肝	観血的	51.7%	40	97.0%	746	50.0%	83	22.1%	7.3%	80	26.2%	30	2.5%
	放射線	16.1%	0	0.0%	244	16.5%	68	18.1%	15.0%	65	21.3%	163	13.4%
	化学	4.1%	0	0.0%	62	4.2%	75	20.0%	32.5%	69	22.6%	424	35.0%
	治療なし	31.3%	1	2.4%	474	32.1%	187	49.9%	53.1%	126	41.3%	680	56.1%
肺	観血的	22.4%	-	-	193	22.4%	10	22.7%	7.6%	14	10.0%	9	5.6%
	放射線	7.2%	-	-	62	7.2%	0	0.0%	6.3%	12	8.6%	7	4.3%
	化学	28.7%	-	-	247	28.7%	7	15.9%	21.6%	29	20.7%	36	22.4%
	治療なし	30.5%	-	-	263	30.3%	27	61.4%	64.8%	83	59.3%	112	69.8%
乳房	観血的	82.8%	76	93.8%	641	81.7%	169	94.2%	38.4%	43	54.4%	15	20.8%
	放射線	16.2%	21	25.9%	119	15.2%	44	23.2%	7.3%	7	8.9%	4	5.6%
	化学	7.0%	1	1.2%	60	7.6%	37	19.5%	21.2%	16	20.3%	16	22.2%
	治療なし	5.1%	3	3.7%	41	5.2%	14	7.4%	17.9%	5	6.3%	22	30.6%
大腸	観血的	94.7%	-	-	2,155	94.7%	313	89.7%	37.6%	175	79.2%	115	20.9%
	放射線	0.1%	-	-	2	0.1%	1	0.3%	2.5%	0	0.0%	19	3.5%
	化学	3.0%	-	-	69	3.0%	236	67.6%	77.8%	176	79.6%	424	77.1%
	治療なし	4.4%	-	-	100	4.4%	17	4.9%	14.3%	13	5.9%	97	17.6%
肝	観血的	97.7%	2,081	99.6%	2,495	96.2%	980	96.5%	67.2%	371	88.8%	561	57.9%
	放射線	0.3%	1	0.0%	11	0.4%	40	3.9%	6.0%	49	11.7%	34	3.5%
	化学	7.4%	2	0.1%	344	13.3%	747	73.5%	76.1%	301	72.0%	754	77.8%
	治療なし	1.9%	7	0.3%	82	3.2%	22	2.2%	9.0%	11	2.6%	114	11.8%
肺	観血的	89.0%	118	97.5%	1,408	88.3%	223	56.5%	15.1%	186	48.4%	75	5.6%
	放射線	4.5%	1	0.8%	76	4.8%	100	25.3%	27.7%	122	31.8%	357	26.5%
	化学	12.9%	0	0.0%	222	13.9%	258	65.3%	72.9%	246	64.1%	1,016	75.4%
	治療なし	5.5%	2	1.7%	92	5.8%	43	10.9%	16.6%	39	10.2%	248	18.4%
肝	観血的	40.8%	-	-	300	40.8%	6	40.0%	13.8%	29	24.6%	6	4.4%
	放射線	6.0%	-	-	44	6.0%	1	6.7%	12.3%	16	13.6%	15	11.1%
	化学	29.9%	-	-	220	29.9%	7	46.7%	49.4%	58	49.2%	67	49.6%
	治療なし	10.6%	-	-	78	10.6%	3	20.0%	37.5%	36	30.5%	59	42.7%
乳房	観血的	92.4%	383	93.0%	2,214	92.3%	746	87.9%	39.2%	98	66.7%	66	24.4%
	放射線	40.8%	172	41.7%	975	40.7%	294	34.6%	17.7%	34	23.1%	40	14.8%
	化学	23.3%	7	1.7%	647	27.0%	550	64.8%	63.2%	100	68.0%	164	60.5%
	治療なし	1.4%	7	1.7%	31	1.3%	15	1.8%	8.9%	7	4.8%	30	11.1%

【結論】

原発巣の切除や縮小手術が可能な部位のがん患者では、75歳以上でも積極的に観血的治療などが行われていた。一方、治療困難な部位や進展度が進んでいる患者では、高齢になるほど化学療法などの全身治療も施行されない傾向がみられた。発見経緯などを含めて、今後は標準集計の中でも年齢別の分析結果が提供されることが必要だと考えられる。

日本がん登録協議会 第34回学術集会 COI開示 筆頭演者：吉田 匡良 当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。